

研究課題 (テーマ)	コロナ禍における保健師の健康危機管理能力を高める教育プログラム開発のための基礎研究		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	講師	中堀伸枝
	看護学部看護学科	教授	越田美穂子
研究結果の概要			
<p>目的：コロナ禍における健康危機管理において保健師に求められる能力とその能力を養うために学ぶ・体験するとよいことを明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法：令和4年11月～12月、A県内の保健所で勤務し、研究への協力の得られた、新型コロナウイルス感染症対策業務に携わった経験のある保健師4名を対象とし、インタビューを行い、内容の分析を行った。</p> <p>結果：研究参加者の所属は、県型保健所3人、市型保健所1人であった。携わった業務内容は、保健師としての対人での直接業務として、疫学調査、健康観察、相談業務、PCR検査など、役職付きの間接業務として、クラスター対応、医療機関との受診・入院の調整、地域の医療体制の整備、地域の専門職間の連携体制の整備、人員・業務の調整、所内の合意形成、所内の業務体制の調整、疫学調査の標準化とマニュアル作成、県本庁との業務連絡、県内ホテルの宿泊療養施設の調整などがあった。</p> <p>感染症のパンデミックに対応するために保健師に求められる能力として、【電話で聞き取り・健康観察・相談対応できる能力】【組織内外と連携・調整できる能力】【医療資源を把握する能力】【データ処理・情報発信できる能力】【組織の業務のマネジメント能力】【個人で健康管理できる能力】という6カテゴリーが抽出された。それらの能力を養うために学ぶ・体験するとよいことについて、【感染症への理解と関心】【看護基礎教育からの学びの積み上げ】【保健師の専門性に関連した視点と実践力を身につける】という3カテゴリーが抽出された。</p> <p>考察：保健師がパンデミックに対応するために、健康観察や相談対応できる基礎的な能力の上に、地区を把握し地域の人々と関係をつくる能力、電話だけで看護過程を展開できる能力などが重要になると考えられた。</p>			
今後の展開			
<p>本研究と健康危機管理教育プログラムに関する文献レビューを行い、得られた結果をもとに、今後、感染症主担当の保健師に広く調査を行うための質問紙を作成していく予定である。</p>			